

# 巻頭言

Jネット副会長

## 松川太賀雄（稲田出身）

私たちが上越を出てから数十年になり、今は大きく変わり帰郷することに懐かしさを募らせます。しかし、今の若者にとつて、今の景観と行事や生活習慣は、二十〜三千年後には原風景になります。ですから、これから新しく創る公共物や民間の建造物など、そして、市の制度や催事などすべてに言えることです。それがスタートの時はたとえ荒削りであっても、歳月に耐え時間の経過と共に磨かれ馴染みとなるものを、若者への贈り物にしたものです。

今年には江戸開府四百年に当り、東京では色々なイベントが計画されています。家康が天下統一してから今日まで、日本は驚異的な変化を経験しました。その中で、我が上越の歴史も多くの変遷を経て、今の上越市となって三千年です。あと十回余り歴史を繰り返す中で、どの様になって行くのか興味深いところです。

さて、私たちの「ふるさと上越ネットワーク（Jネット）」は発足して既に七年目になりました。Jネットの名称や活動は徐々に知られるようになっていますが、果たして見かけと実態はいかかと自問しているこの頃です。

上越地域では今、上越市を中心に十四市町村で平成十七年一月一日の合併を目指して協議が進められています。この合併については本文中に詳しく記載されていますが、合併すると「特例市」の要件を満たし、市が独自で図る行政機能が増える

こととなります。そして、新しい市の実現に向つて、新しいマネージメント感覚で新時代にふさわしいビジョンや計画が示されるでしょう。そこで必要なのは、美辞麗句が並んだ目標や指標数字だけではなく、まちづくりの方向が肌で感じられるような実施計画書だと思います。この計画書の内容には大いに期待するところです。

そして、もう一つの関心事は、新市の名称です。高田や直江津は三百年以上も使われ、「上越市」は高田や直江津に永く馴染んだ人々にとつてまだ違和感がともなうでしょうが、今の若者にとつては高田や直江津以上に、上越はこだわりのある名前になつていくことでしょう。これから新しい市にどのような共通の想い託すか、そして、みんなが我がまち新市の名前を、誇り高く育てアイデンティティーのシンボルとすることが出来るか決まることだと思います。



Jネットは、ふるさと上越の応援団です。ふるさと上越を誇りにできることは私たちの喜びです。これからも上越の発展を願つて、全国に居られる会員の皆様から、それぞれ各地から上越を見て気付いた貴重な意見やアイデアを、今までも増して積極的に提案して行くようではありませんか。